



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第11回)



財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えしていきます。

マナー編 プロ野球の沢村賞に決定した楽天イーグルス田中将大選手に選考委員会が苦言

プロ野球、楽天イーグルスの田中将大選手が今年の最多勝、最優秀防御率、最高勝率と主要3部門でタイトルを獲得し、見事沢村賞を受賞したにもかかわらず、選考委員全員から注文が付けられたそうです…



球界を代表してきた5人の名選手¹が務める沢村賞の選考委員会では、「マウンドで打者を馬鹿にしたように吠えまくる。マナー面で少年野球に良い影響を与えない。沢村賞に輝くような優秀な選手なら止めてほしい。」といった注文が委員全員から寄せられました。発表では「ガッツポーズや雄叫びをあげる投手が増えている」ことにも言及して苦言を呈しています。気迫を前面に押し出しても、相手を馬鹿にしたとなれば大きな履き違いです。パフォーマンスと言われれば、アマチュアには全くの無関係。何より選考委員も、かつては高校球児。大先輩たちが口をそろえて憂えるマナー面での課題に、プロとアマの区別なく、大切な「Respect(リスペクト)=尊敬」というスポーツマン精神の根本が問われています。

ルール編 サヨナラのつもりが延長戦へ…??

同点で迎えた9回裏、2死満塁の一打サヨナラの好機で、打者は見事に一・二塁間を破る安打を放った。三塁と二塁の走者は、それぞれ本塁、三塁を正しく踏み、打者走者も一塁に達した。この時、勝利を確信した一塁走者が試合終了の挨拶へと本塁方向へ向かった。これを見た相手捕手は、外野手からの返球を保持してその一塁走者へタッグした。球審はアウトを宣告して延長戦になりました。三塁走者は本塁を正しく踏み、打者走者も一塁へ達していたのだから、サヨナラで試合終了なのでは?

一塁走者は塁を明け渡さなければならない「フォース」の状態だから、タッグされるか二塁に触球されればアウトになります。公認野球規則7・08(a)(2)には、「一塁に触れてすでに走者となったプレーヤーがベースラインから離れ、次の塁に進もうとする意思を明らかに放棄した場合」は「走塁放棄」により審判員がアウトを宣告することを想定しています。しかし、同じく【注三】には、「フォースの状態におかれている走者に対しては、本項(2)を適用しない。」とあります。つまり上記のケースでは、審判員は走塁放棄で一塁走者にアウトを宣告することはなく、守備側のアピール行為があって初めてアウトを宣告することになるのです。

満塁で全走者がフォースの状態にある中で、三塁走者以外の走者が次塁を踏まずに戻ってくるのを時折見かけます。勝ち負けを決する重要な場面、「ルールを知らなかった」では取り返しがつきません。

次回は上記とよく似ているものの、進塁義務に違いがある事例をご紹介します。



¹ 土橋正幸(委員長)、堀内恒夫、平松政次、村田兆治、北別府学。